



▲趣味は読書で、山岡荘八の『徳川家康』全26巻を読破。宮部みゆきが好きという姜智娜さん。

言葉の壁や人間関係など、様々な問題を努力と“開き直り”で乗り越えてさらに新たな夢にチャレンジ！

■日本に来られたきっかけは？

夫が日本の会社で仕事をする事になったからです。私と夫は小さい頃からの幼なじみだったのですが、日本行きが決まったときは、まだ結婚していませんでした。それで夫は日本に行って一人暮らしを始めたんですけど、きつしんどかったんでしょ。休みを取って韓国に戻り、結婚しました。結婚式を挙げた翌々日には、もう日本に来ていたんですよ。以来今年で17年目になります。

■日本に来ることに抵抗はありましたか？

全然抵抗はありませんでした。韓国は日本との歴史認識問題で、日本に対して先入観を持っている人が多いのですが、私は白紙状態でした。でも日本語の勉強はまったくしてなかったんで、一人ではバスにも電車にも乗れない。車の車線が韓国とは逆なので、道を歩くのもとても怖くて、はじめの3か月は家にこもってとにかく日本語の勉強をしていました。日韓と韓日の辞書を、最初のページから覚えていったんです。

■中学校でPTAの会長をされたそうですが、何かきっかけがあったのですか？

たまたま、下の子が中学2年の時に、附属中学校が韓国に修学旅行に行くことになったんです。そのとき、生徒たちの研修会や韓国語の授業を受け持ち、学校の先生に同行して旅行の引率をしました。また、旅行先で韓国の学校と交流するときは通訳もしました。そして、毎年夏には韓国の中学生がホームステイに来るのですが、ホームステイを受け入れる家庭の親御さんの研修会も私がしました。そんなことがあって、学校の中で私の名前が知られるようになったので、PTAの会長に名前が挙がった

のだと思います。

■そのように積極的になっていかれたのはどうしてですか？

幼稚園の母親同士の人間関係で、とても悩んだことがありました。一人の人が私を避けるようになると、他のみんなも幼稚園では私を無視するようになったんです。でも、スーパーでばったり会って「こんにちは」と挨拶くれる。どういうことかと思ったときに、開き直ることができたんです。相手は相手、自分は自分で相手に合わさなくてもいいんだという考え方に気付いたんですね。

学校では、韓国人だという理由で子どもの中でトラブルになりました。そのとき先生に「どんどん国際化が進んでいく中で、こんなことが起こっていいんですか」と話したところ、とてもよく対応してくれて、いろんな試みをしてくれました。私自身子どもには、自分の力で何とかしなさい、強さを見せてやりなさいと言いつけさせたこともあって、4年生ぐらいからは、もう私の助けなしでやっていくことができるようになりました。

■韓国語の通訳や翻訳で活躍されていますが、今はスペイン語を習っているそうですね。

スペイン語は2年ぐらい前から勉強したいと思っていました。英語ですごく挫折をしているから。韓国も受験英語なので、本は読めても聞いたり話したりができない。そこでリベンジしようと思って、よく使われているスペイン語にしました。スペイン語が分からないまま講座に行ったのですが、全然言葉が分からないにもかかわらず、そこで先生が話すスペイン語の意味が分かるという不思議な体験をしました。日本語の場合はそういうことはなかったのです。

●プロフィール●

韓国・ソウル出身。独身時代は記者として活躍。結婚と同時に来日し、滋賀県で暮らし始める。来日後独学で日本語をマスター。滋賀大学附属小学校・中学校でPTAの役員を務める一方、滋賀県国際協会ボランティアとしても活動し、韓国語講座の講師のほか、通訳、翻訳を手がけるなど語学を生かして多方面で活躍している。

が、日本語を勉強するうちに、言葉の意味を感じ取る力がついてきたのかなと思うんです。例えば、目が見えなくなると触覚とか聴覚とかが発達してくるというでしょう。そんな感じで、今まで自分になかった何かが発達してきたんですね。そうなるのと、とても言語の勉強が楽しくなります。この後は、3年目に中級に進んで、4年目でスペイン旅行をして列車に乗る、5年でボランティアができるくらいになりたいです。

■外国人として滋賀県で暮らしてみても、どんなことを感じていますか？

日本人は外国人を助けようとして、いろいろなことをしてくれるけれども、それが逆に外国人の自立を妨げています。日本人はボランティアで自己満足しているなら、それは止めてくださいと言いたいですね。そうすると外国人はいつまでも自立できないし、何でもしてもらって当たり前と思ってしまうんです。外国人は日本のこと何も知らないから、日本では何でも人を頼っていいんだと思ってしまふんですよ。そうではないと後から悟らせようとしても無理。ケンカになりますよ。そのせいで不満を持ち、日本が好きで来日したのに、日本が嫌いになって去っていく人も多いのです。外国人に対しては「してあげる」ではなくて「導く」ことに焦点を当ててほしいなと思います。